

一般社団法人 島根県トライアスロン協会

—— これまでのあゆみ

島根県トライアスロン協会は平成6年に設立され、平成13年4月に島根県体育協会に加盟した。それ以来、県内のトライアスロンの普及と発展に尽力してきた。

トライアスロンは、水泳・自転車・マラソンの3種目を連続して行う競技で、昭和49年に米国カリフォルニア州サンディエゴで誕生した。昭和53年にはハワイのワイキキで開催された大会を契機に「アイアンマン」として世界に広まった。日本では「鉄人レース」として一気に人気が高まり、昭和56年には鳥取県米子市皆生で日本初のトライアスロン大会が開催された。島根県でも、隣県での開催ということもあり、トライアスロン愛好者が増加し、協会設立のきっかけとなった。

その後、トライアスロン競技は国内外で発展し、平成12年のシドニーオリンピックでは正式種目となった。さらに、平成21年の新潟国体では公開競技として行われ、平成28年の岩手国体では正式種目として採用された。

これまで当協会では、天候やコースレイアウトの制約を受けやすいトライアスロンの特性を考慮し、3種目にこだわらず、状況に応じてマラソン大会、水泳とマラソンを組み合わせたスイムラン大会、自転車とマラソンを組み合わせたデュアスロン大会など、多様な形式で大会を開催してきた。性別や年齢、経験の有無を問わず、多くの方にマルチスポーツの楽しさを伝え、地域や関係団体との交流を深めることで、スポーツコミュニティの発展に寄与してきた。

—— 現在の状況

現在、当協会は主に一般の方を対象とした各種イベントや大会の開催に加え、小・中学生向けのトライアスロン教室やマルチスポーツ体験イベントを行っている。また、国民スポーツ大会などハイレベルな大会に参加する競技者向けの講習会や強化・サポート活動も展開し、さまざまなニーズに対応している。

さらに、これらの活動を支えるために必要な人材の育成にも注力している。審判員や指導者の養成を推進し、安全で公正な競技運営を実現するとともに、競技者が各種大会に参加する際に重要な競技規則を正しく理解できるように取り組んでいる。また、トライアスロンの普及や発展を図るため、指導者の育成にも力を入れており、スポーツ界に求められる多様性への対応も含め、組織の体制強化を進めている。

—— これから

当協会は、2030年に開催予定の島根かみあり国スポに向けた準備を進めている。前回のくにびき国体ではトライアスロン競技が実施されなかったため、過去の経験を活かすことはできないが、関係各所と協力し、島根で初めて開催されるトライアスロン競技を楽しみに準備を進めている。



平成22年 多伎キッズ



平成22年 日本選手権(東京お台場)



平成25年 さくらおろち湖トライアスロン練習会

今後も、県内におけるトライアスロンの普及と競技の発展に寄与し、さまざまな方が安全で安心してトライアスロンやマルチスポーツに参加できる環境を提供するための活動を続けていく。

よく人生をマラソンに例えることがあるが、多様性が求められる現代において、トライアスロンもまた人生の一例となり得ると考える。トライアスロンでは「完走した者はすべて勝者」と称される。人生には得手不得手があり、山あり谷ありだが、自分のペースで困難を克服し、自分のゴールに到達することがトライアスロンと共通すると思う。

今後も、多くの方がトライアスロンを通じて人生を謳歌し、「生涯スポーツ」としてのトライアスロンを実感できるようサポートしていきたいと考えている。